

3-15 関東地方の地殻変動

Crustal Movements in the Kanto District

国土地理院
Geographical Survey Institute

第1図は熱海市から藤沢市に至る水準路線の上下変動である。前回は藤沢から見て熱海側がわずかに沈下していたが、今回はその沈降量以上に熱海側が隆起している。

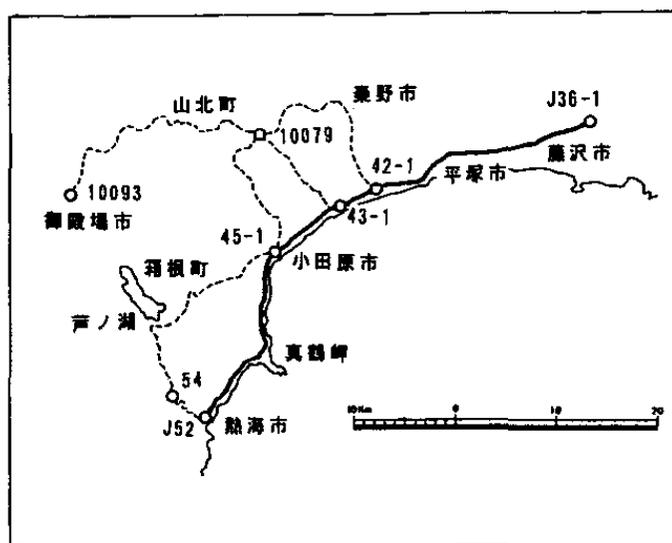
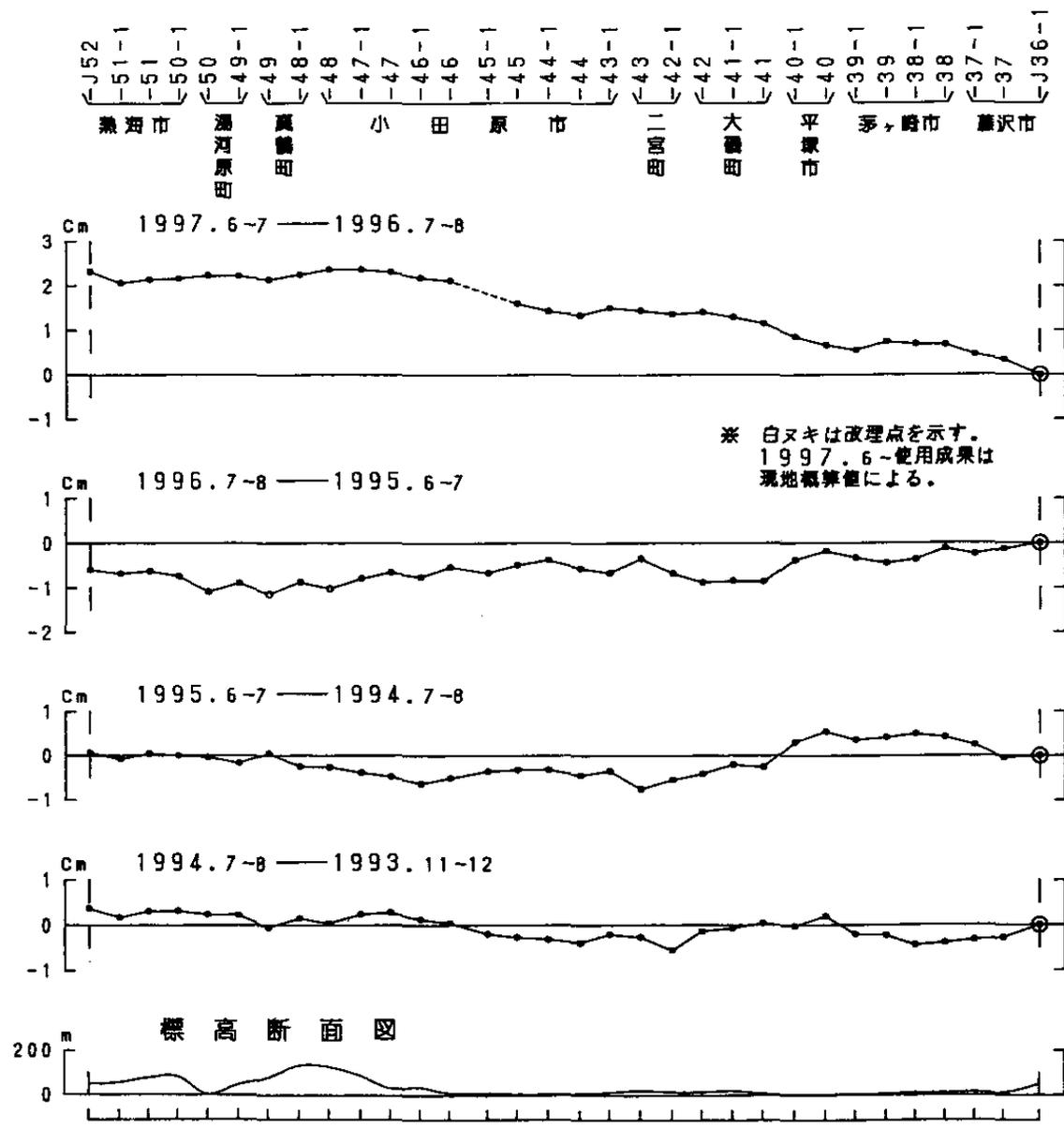
第2図は相模湾沿いの水準測量と験潮観測による経年的な上下変動を示したものである。油壺を基準に見ると、湘南の海岸ではここ25年間を見てもほとんど変動が見られないが、熱海以南の伊豆半島東海岸では、伊東を中心に継続的に隆起がみられており、特に伊東験潮場では年間3cmという速い速度で隆起が進行していることが、水準・験潮の両方から確認できる。

第3図は、油壺・布良・勝浦験潮場間の月平均潮位差である。布良が油壺に対して1987-8年頃に隆起しているがその後はあまり変化がない。

第4図は鹿野山精密辺長測量結果である。1995年の破線で示す時点で鹿野山の器械点の場所が変更されており、データの継続性はないことに注意を要する。東西、南北、北西-南東方向の3基線とも、継続的に縮みの傾向にあるように見える。

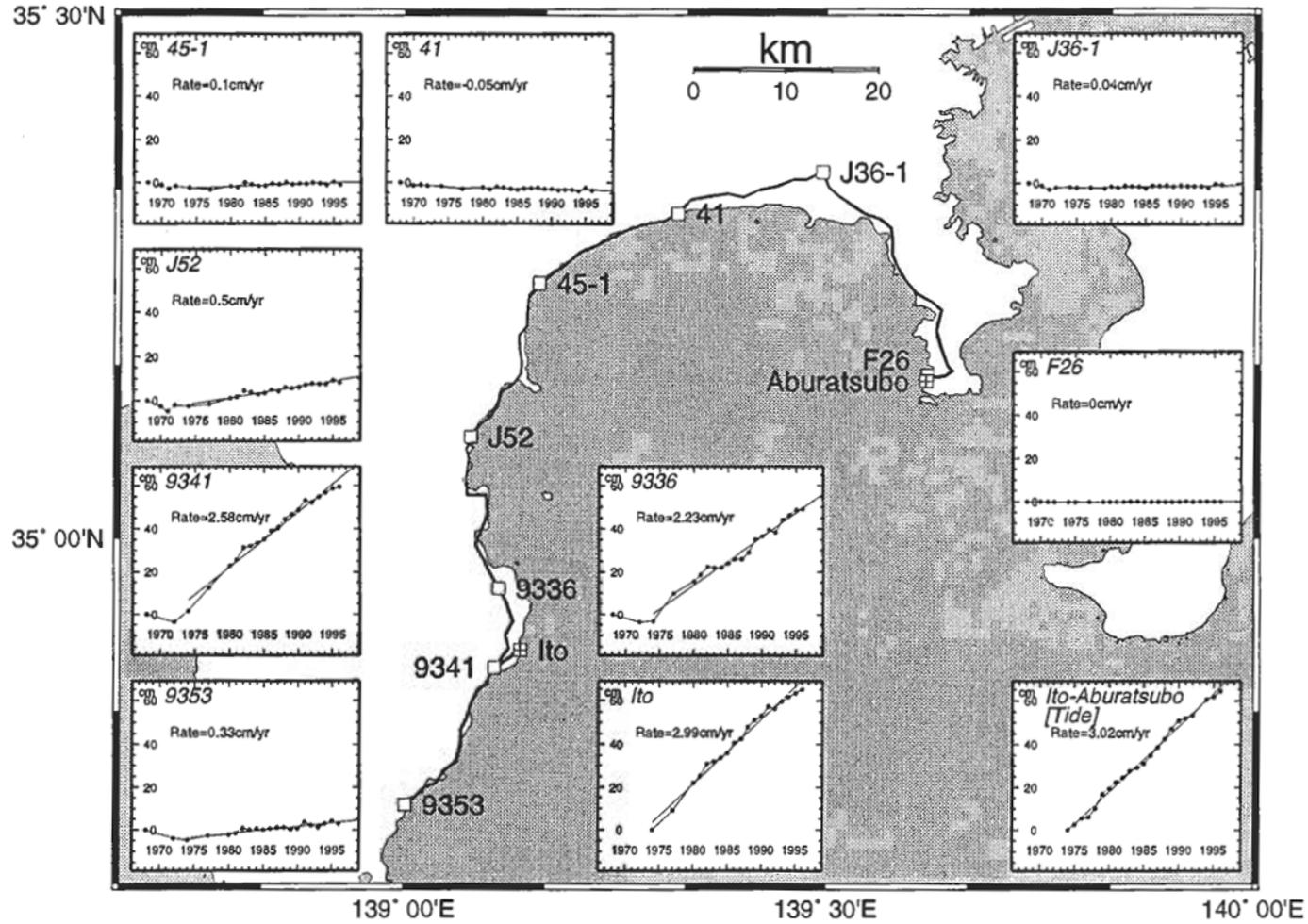
参 考 文 献

- 1) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，**54**（1995），232-252.
- 2) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，**55**（1996），76-181.
- 3) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，**56**（1996），205-219.
- 4) 国土地理院：房総半島の地殻変動，連絡会報，**57**（1997），223-236.
- 5) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，**58**（1997），148-162.



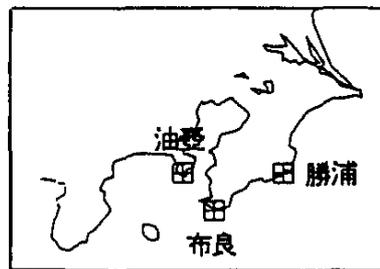
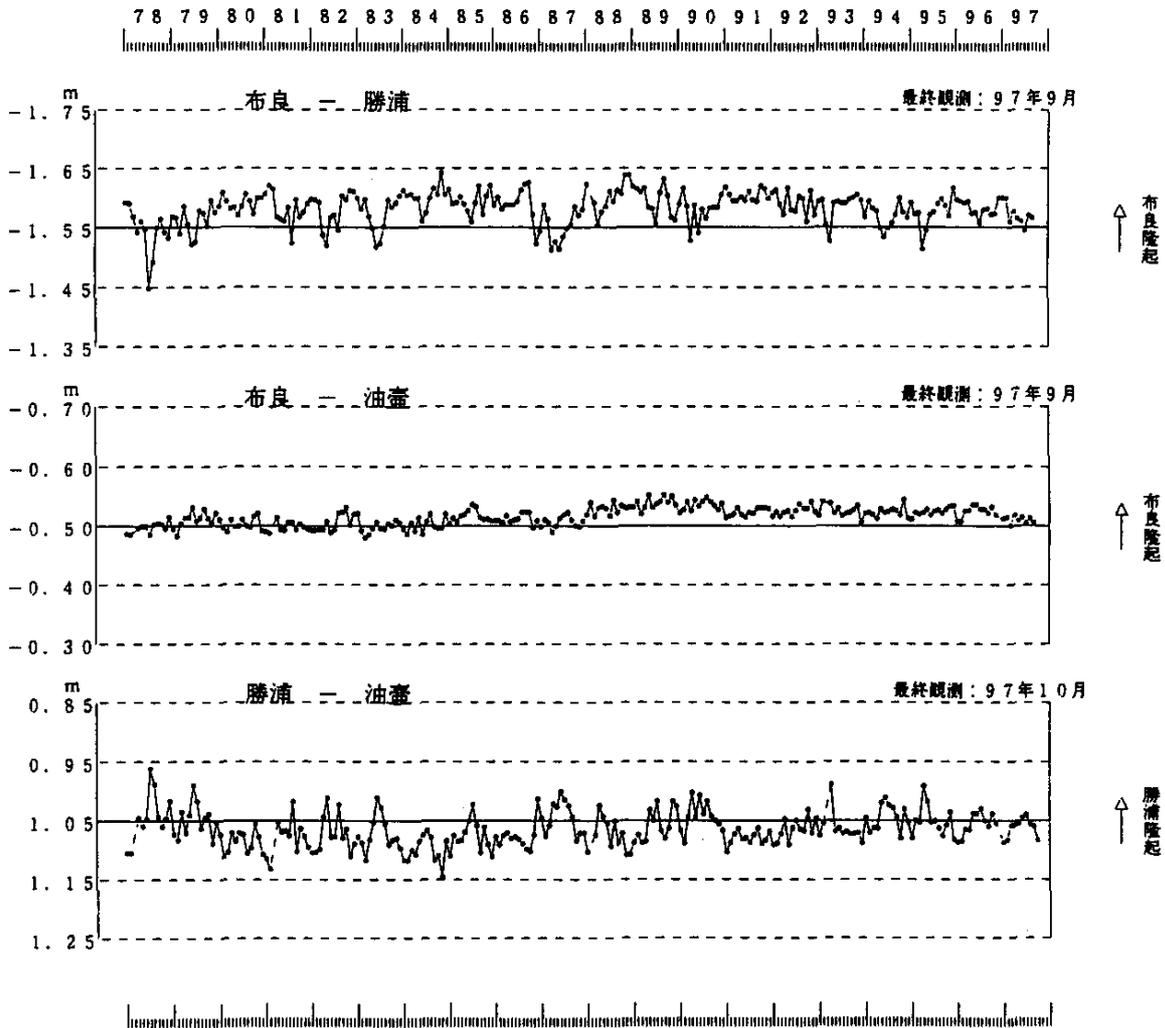
第1図 熱海市～藤沢市間の上下変動
 Fig.1 Vertical movements along the route from the Atami to Fujisawa.

基準: 油壺験潮場 上下変動速度は1974年以降のデータによる。



第2図 水準測量・験潮による相模湾周辺の上下変動

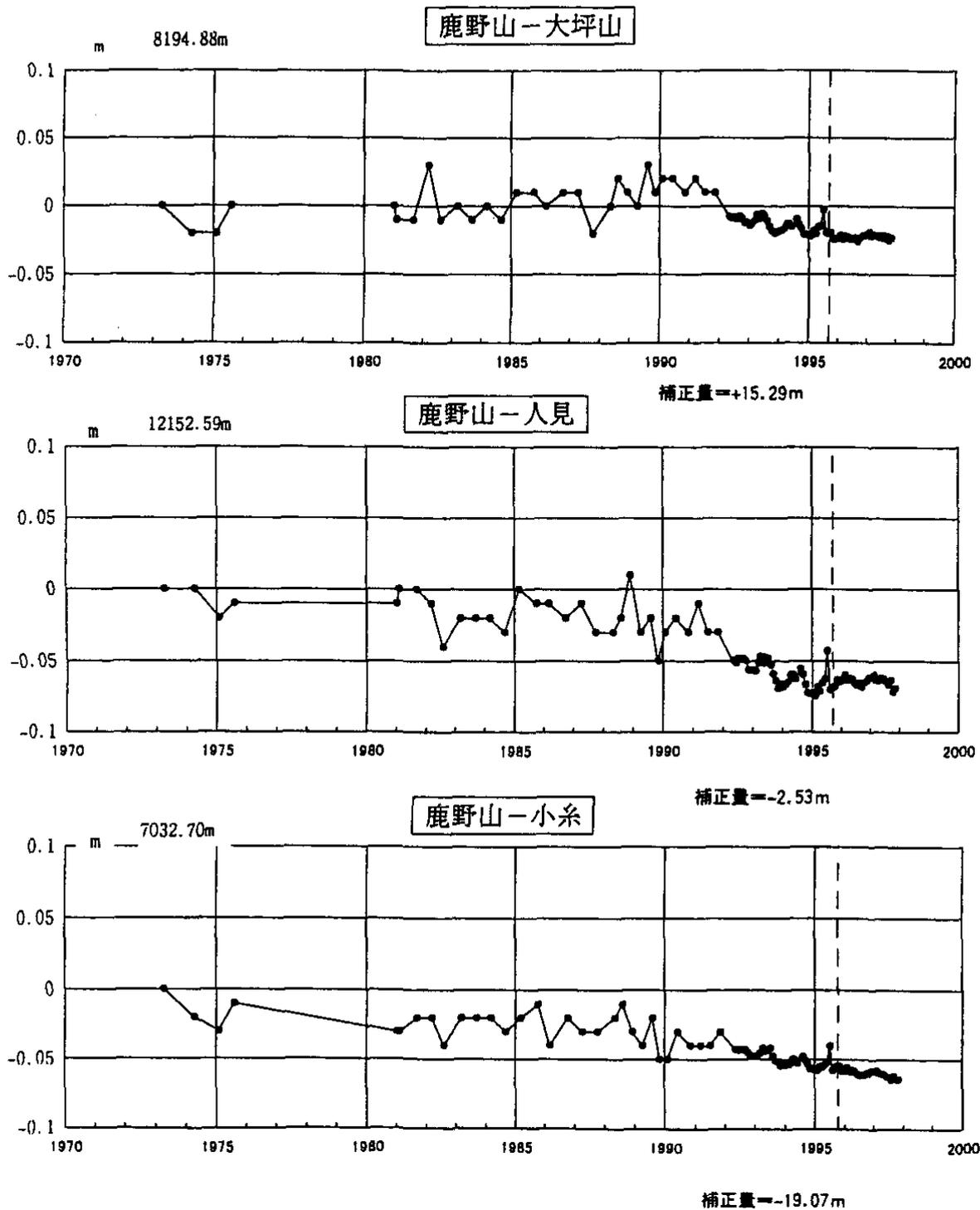
Fig.2 Vertical movements along the Sagami-bay by leveling and observation.



第3図 油壺・布良・勝浦験潮場間の月平均潮位差

Fig.3 Differences in monthly sea levels between Aburatsubo, Mera and Katsuura tide stations.

1992年4月からのデータは月平均値
 1995年10月から器械点移動



第4図 鹿野山精密辺長測量結果

Fig.4 Results of precise distance measurements in the Kanozan baseline network.